2004年（H16）

在京芸陽

2

廣島二中・観音芸陽会

在京芸陽

2　平成16年（2004）10月15日発行

グラビア「平成15年在京芸陽会総会グラフ」……2~3
「観音の皆さんへ」　奥窪事務局長……4
観音校内に二中校訓石碑誕生……5
観音サッカー2年連続全国大会へ／本部総会……6
被爆の詩「うたってください」OB合唱団……7
「ゴルフ会に参加しませんか」山木　和雄……8~9
【同期会だより】東京二二会……上杉襄一……10
〃　観音20回在京同期会…松本直和……11
同窓会本部初訪問の記　松本　正……12
続編まで発行・胡子英幸『旅は道連れ』……14
「我が在校の頃を想う」　岡島　知一……16
三宅紳童家秘蔵アルバムから……18
ドル札／1号への声／「あとがき」……裏表紙裏

廣島二中・観音芸陽会

平成15年
在京芸陽会総会
グラフ

'03　平成15年10月10日　於 日本青年館

西亀達夫会長（二9）挨拶

開会のことば入江敏夫（二18）さん

司会席から場内遠望

乾杯の音頭は今年も二中1期の竹林信夫大先輩
自らの記事が載った会報を手にしながら

立食、テーブルと思い思いの歓談

今年は古典芸能「南京玉すだれ」の妙技を披露　川崎利秋（二17）さん

今年も軽妙な大成正樹司会（観13）

ビンゴの数字に一喜一憂？

美しい観音後輩の助けを得て
奥窪事務局長（二21）
ビンゴ福引

特賞の広島産松茸

㊤彩雲なびく…　二中校歌

㊦あゝ厳島…　観音校歌

閉会のことば　山木和雄（観3）さん

バンザーイー　内村佐武郎（二18）さん

これは万歳ではありません
フレーフレー！大成司会恒例のエール

観音卒の皆さん　これからは貴方がたです！

『在京芸陽会事務局より』

事務局長　**奥窪　五郎**（二中21期）

母校も創立８１周年を迎え高卒生の卒業回期も５５回となり、同窓生数も約２万９千人に及び、当地方に在住される方々も約１，６００人を数えることなりました。広島の同窓会本部においても在京芸陽会を東京支部として活動に期待しております。

今年の夏は連日記録破りの猛暑、例年ならば１０月の大会を控えての８月に全回期世話人会を招集し、会計報告及び大会の仕様について審議して頂くのが恒例ですが、今年はこの猛暑による体調不良も考え、最小限の世話人会において従前の方式にて実施するべしとの決定を得ました。　従って、例年のごとく、本年も事務局において大会の案内状を一部無作為抽出により５００名の方に差し出しましたが、次回よりは各期幹事よりの案内伝達といたすべく計画中です。

この会の存在をご存じない方のために敢えて［案内状要旨］を再録します。

本年も下記要領にて卒業年次を越えて同窓生の絆を強め、交歓の輪を広げたく１８回大会を開催いたします。今まで未参加の方、是非参加してみてください。懐かしい級友・先輩にお会いできる機会が有るかとも存じます。

日時　１０月１５日（金）午後６時開会
於　　日本青年館　新宿区霞岳町（神宮外苑）
会費　１０，０００円（同伴家族１名無料）

恒例のビンゴゲームによる福引き景品も、１等広島産松茸をはじめとする故郷の香りの数々を盛沢山にして楽しみたいと存じます。母校・恩師・旧友・を語り広島弁を喋り、明日への活力とされては如何ですか。

事務局よりのお願いです。高卒生の皆さん、各期においてクラス会、同期会を開催されている期もあるやに聞いておりますが、お世話をなさる方、何卒、在京芸陽会の幹事としてお力添えください。　また、会報への寄稿、投稿をお願い致します。

前回、昨年１０月１０日の大会の模様は本誌グラビアに掲載しました。収支報告は下段のとおりです。年会費という安定財源がなく、出席会費に依存している現状では、大会出席者が極端に少なかったのが響きました。

在京の同窓会を立ち上げて以来１８年、ここ数年で、念願だった観音組へつなぐことが出来たことを実感しています。二中卒の増は見込めませんので高卒生に期待すること大です。

たかが同窓会、されど同窓会。　観音高卒の皆さん、これからは貴方がたです！

（９月吉日記）

［第１７回大会出席者］（順不同）
【二中】[1] 竹林信夫[9] 西亀達夫 [12]伊藤得平 [13]植花　武 [15] 倉本　馨 [16]落合一郎、井原義量、持本志行 [17]川崎利秋、胡子英幸、[18]入江敏夫、内村佐武郎、三宅紳童 [20]槇田辰昭 [21] 奥窪五郎、藤川浩司 [22] 池内正躬、上杉襄一、亀井賢伍、末岡恒美、松本　正
【観音】[3] 山木和雄、矢沢朝乃、槇田美保子 [6] 平田博義 [7] 小出　隆 [9] 滝山　昇、渡部亮一、西平美貴、高原孝次郎、丹下容子 [11]田中秀穂 [13]大成正樹 [20]松原邦夫、升田和一、松本直和、志和木薫、串山絹恵、猪原陽子、小林　剛　　－以上－

芸陽会収支報告　　１６年８月３１日

前期繰り越し				１３９２９２
会費収入	３９名×１００００			３９００００
計				５２９２９２
支　出				
会費振り込み手数料３６×７０		２５２０		
大会案内状消耗印刷費　５５０		１２０００		
タックシール他				
郵送料		４４０００		
大会費用　日本青年館		２２００２７		
景品　紅葉級頭４０		２６０００		
ちりめんじゃこ	５	７０００		
清酒　白牡丹	１	１５７５		
漬塩	２	２３１０		
〃　松茸	１	１００００		
交通費及通費		６２７０		
大会費用計			３３１７０２	
寄　付				
ユース出場同窓会本部		１００００		
会　報				
助成金　松本デザイン		３５０００		
会報郵送費４０部×１５０		６０００	５１０００	
支出計			３８２７０２	
当期剰余金				７２９８
次期繰越金				１４６５９０

観音校地内に二中校訓石碑誕生

…先輩の提言がようやく実を結ぶ…

初代　泉　英七　校長

寺本和彦同窓会長

現観音高校の校地内に、前身校が広島県立第二中学校である証しを表示したものは今まで無かった。

この状態に心した二中の先輩達は、かねてから同窓会総会・懇親会などの席で、観音高校長に「校内に二中時代の運動部の活躍した実績を検証する記念碑でもあれば後輩たちのよい刺激になるのだが…」と提言していた。これが動機となったというか、この話が「運動部のみならず、全生徒が心がけねばならないこと、伝統を引き継ぐものとして校訓・教育方針の周知を優先したら…」と膨らみ、この考えに賛同した現在の寺本和彦同窓会長が同窓会役員と尽力、二中初代校長・泉英七先生の教育方針である校訓を刻んだ立派な石碑の寄贈が実現した。

建立式は平成十六年六月十三日（日）、寺本会長、松本現学校長立会いで目出たく催された。設置場所は正門入ってすぐの本館前芝生内という校内一等地。

二中・観音の歴史的流れが、教職員、生徒、保護者はむろんのこと、外来者の方にも理解してもらえるし、生徒の指導に役立つと期待されている。

［泉校長校訓］

平安の裡に奮闘あり　自由の境に秩序あり
和気藹然たる間に　規律節制あり

（換言すれば「学校をして規律正しき家庭たらしむ」という意。この額は十八代浅岡校長の手で校長室に掲げられている）

なお、石碑の後ろの像は昭和四十二年本館完成時に創られた「若人」の像、観音11回・沖田利紀氏の作品。

（同窓会本部事務局・金藤朋子さん情報）

強いゾ　観音高サッカー！

２年連続全国大会（高円宮杯）出場

９月２５日から開幕するサッカーの高円宮杯全日本ユース（１８才以下）選手権に、観音高校サッカー部が昨年に続き２年連続出場を果たした。広島県からは広島ユース、観音高、皆実高が出場した。この選手権には全国から２４チームが参加するが、広島の３チームは全国９地域で３月～７月にかけて行われたたプリンスリーグ中国大会に出場、広島ユースが優勝、観音高は２位、皆実高が３位となり出場権を得たもの。

広島ユースは［全国制覇」を見据える。　観音高の１次リーグには前年優勝の市船橋高（千葉）、鹿児島実業（鹿児島）の強豪がいるが、出発を前にした観音主将は「名前負けせず４強入りをねらう」と張り切っていた。

大会日程は９月２５日から１０月１１日までとあって速報力の乏しい本誌発行の１０月１５日には結果が出ているというタイミングの悪さではあるが、ここは健闘を祈っておきたい。

観音高ホームページによると、中国サッカー協会主催の［第５１回中国高等学校サッカー選手権大会］が、プリンスリーグより後の８月８、９、１０の３日間にわたって岡山県総合グラウンドなどに中国各県代表１６チームが揃い、トーナメント方式で行われた。広島県からは銀河学院、広島皆実、観音の３校が出場したが、ここでも昨年準優勝の観音高が優勝戦で山口県・多々良学園を破り、本大会での初優勝を遂げている。

観音高校サッカー、強くなったもんだ！

グループE	広島観音高校	鹿児島実業高校	名古屋グランパスユース	市立船橋高校
広島観音高校		9/25(土)11:00 ❺	9/26(日)11:00 ❺	10/2(土)13:15 ❺
鹿児島実業高校	9/25(土)11:00 ❺		10/2(土)13:15 ❾	9/26(日)13:15 ❻
名古屋グランパスユース	9/26(日)11:00 ❺	10/2(土)13:15 ❾		9/25(土)13:15 ❺
市立船橋高校	10/2(土)13:15 ❺	9/26(日)13:15 ❺	9/25(土)13:15 ❺	

今年の本部総会・当番は結束力抜群の観音20回期

今年も広島で芸陽観音同窓会の総会・懇親会が１１月第２土曜日に開催されます。広島二中各回期世話人とともに、当番として観音２０回期、同４２回期の卒業生が力を合せて運営にあたります。１０月半ばという本誌の発行時機から時間的余裕はありませんが、本部事務局では在京同窓にも声をかけて、少しでも参加者が多くなって欲しいと、願っています。在京の観音２０回期は本誌別項「同期会だより］にもあるように、在京芸陽会活動にも理解が深く結束力の堅さ、熱心さは抜群。この期の運営では大会の成功は間違いないでしょう。健闘を祈ります。

「実行委員会からの案内」から開催要旨を抜粋。

１．日　時　　１１月１３日（土）　総会　17:00~18:00
　　懇親会　18:00~20:00

２．場　所　　総会／懇親会　リーガロイヤルホテル広島３／４階

３．プログラム　・映像で綴る二中・観音のあゆみ・恩師近況ビデオ映像など

４．会　費　　８，０００円

中国新聞　2004年（平成16年）6月22日（火曜日）　広島面

「中国詩壇」掲載の半田氏（観音27期）が作詞
世田谷在住の蒔田氏（観音3期）が作曲
二中原爆犠牲者の魂の呟きに応えて
合唱曲「うたってください－碑のねがい－」

被爆の詩

昨年八月、中国新聞文芸欄の「中国詩壇」に載った一編の原爆詩が、一年を経て合唱曲になり、「原爆の日」を前に広島市内で披露される。曲は、被爆死した生徒への鎮魂歌を歌い続ける県立広島観音高（西区）OBたちの思いが結実して生まれたものだ。

練習に打ち込む県立広島観音高音楽部OB合唱団。右端が作詩した半田さん、指揮は益田さん

「二中生」慰霊碑の願いつづった

合唱曲に

きらめきバルーン

初演されるのは「うたってください～碑のねがい」。約五分の短い合唱曲。被爆死者の無念の思いと現代に生きるわれわれへのメッセージを、不協和音も効果的に織り込みながら叙情豊かに歌い上げる。

週末に、同校音楽部OB合唱団（約六十人）のメンバーが母校に集い、元音楽部顧問で広島文化短大名誉教授益田遙さん(80)の指導を受け、練習に打ち込んでいる。

詩は、昨年八月十日の中国詩壇に掲載された「碑」。OB合唱団員の会社員半田亨雄（本名信司）さん(29)＝中区＝が詠んだ。

観音高は毎年、同校の前身旧制広島二中の原爆犠牲者三百二十四人を追悼するため、中区の広島国際会議場西側に立つ慰霊碑の前で鎮魂歌を歌い続けてきた。

観音高OB 8月披露へ練習

半田さんは二年前、合唱団一員として初めて碑の前で歌った。その時、碑に眠る二中生から「ずっと歌って」と呼び掛けられた気がした。「戦争が終わり、自由に歌える幸せな世界になった。その平和を守ってください」と。詩の冒頭の「うたってください」のフレーズが自然に浮かんだ。

新聞に載った後、碑前で歌う思いを詠んだ詩だと知ったOBたちが「合唱曲にしよう」と思い立った。指導する益田さんは「歌う意義を彼が詩にしてくれた。感激した」と振り返る。やはりOBで作曲家として活躍する冬木透（本名蒔田尚昊）さん＝東京都在住＝が曲をつけた。

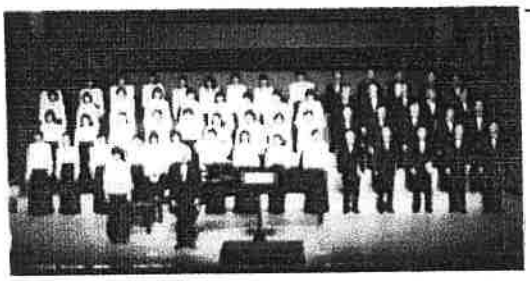
半田さんは「みんな一丸となって歌への思いを結集できたことがうれしい。『今年も平和だったよ』と報告するように歌い続けていきたい」と話す。初演する祈念コンサートは、八月一日午後一時半から中区の県民文化センター。合唱団事務局の市本さん☎082（830）1369。

観音高校OB合唱団は毎年祈念コンサート（混声合唱）を催して二中原爆犠牲者の霊を慰めるレクイエム「碑（いしぶみ）」を歌いつづけているが、今回これに加えて初演された「うたってください～碑のねがい～」が新たに観音高校同窓の手によって生まれたものとして、中国新聞（左上）にも取り上げられ、この活動の歴史に残るものとなった。

この詩は昨年八月十日の中国新聞文芸欄「中国詩壇」に掲載された半田亨雄（はんだ）（本名：信司）氏（観音27期）の「碑」。これは同氏がかつて合唱団の一員として慰霊碑の前で歌った時、眠る二中生から「ずっと歌って」と呼び掛けられた気がし、冒頭の「うたってください」のフレーズが自然に浮かんだという。

これを知ったOBたちと合唱団指揮の益田先生からこの詩を合唱曲にしたいとの委嘱をうけた音楽部第一OBの蒔田尚昊氏（筆名：冬木　透－観音3期・世田谷区砧在住）は快諾、敢えて不協和音も効果的に織り込んだ感動的な旋律が同年十月に完成した。

平成十六年の原爆の日を目前にした八月一日、台風の接近により中止を懸念する声も聞かれたが、第三回祈念コンサートは広島県民文化センターホールに作曲者の蒔田氏もかけつけて無事に開催され、広島二中だけでなく、原爆の犠牲者すべてに捧げられた歌声は満場の聴衆の感銘を呼んだ。



二中慰霊碑に刻まれた一年生の一人を弟に持つ者として、この紙面をかり、関係者の皆さんに感謝の意を表します。

（同窓会事務局・金藤朋子さんからの資料を得て本誌松本記）

参加しませんか!!

(6)会員の構成状況

広島二中卒の方々は第９回卒（Ｓ11年）の西亀会長を筆頭に、第13回卒１名、15回卒３名、17回卒２名、18回卒３名、19回卒１名、20回卒１名、22回卒５名、最後の25回卒１名、の計１８名の方々が参加（ご苦労様です。）

これに対し観音側は、第２回生（Ｓ26年卒）の井町氏以下、第３回生５名、４回生１名、９回生１名、20回生（現役）５名の計１３名（うち女性メンバー３名）の登録です。壮年期（？）の５回生から19回生のご参加が皆無なのも甚だ寂しい限り。今後の積極的なチャレンジを期待しています。（勿論更に若い方々と女性の参加は大歓迎です。

大正会と仲良く　（03･11･11 太平洋･浦）

(7)最後に蛇足ですが、世話役から、そのゴルフ歴とゴルフ観を一言。

◎ゴルフとの付き合いは約４０年、愚妻に次ぐ長さ。（人生のベターハーフ？）

◎最初のとっつきは悪く、草野球一筋だった為、上司の特命に反し、１０ケ月間クラブの封を切らず抵抗。嫌々出場の社内ゴルフコンペは天文学的スコアを記録するも、偶々のナイスショットがホームラン以上の快感を、もたらすことを発見――以後すっかり魅了され病みつきに。

◎スコアの安定と共に、ゴルフ場の景観、特に名門コースを求めて全国巡礼が始まる。その数６２０コース（現７０才時点）

◎今後の目標。

足腰を鍛え、８５才までゴルフを続けること。願わくばエイジシュートを達成すること。

◎ゴルフは人生最良の友。

４０年間のゴルフから与えられ、呼び覚まされた人生の教訓は数限りなく…

忍耐、努力、勇気、正義感、公平の念等々…

それは正に私をして明日への期待と、生きる歓びを与えてくれる。

◎感銘を受けたゴルフ著書。

「もっと深く、もっと楽しく」

中部　銀次郎　氏

「ゴルフの王者」

（故）夏坂　　健　氏

以上ですが、

今後とも、ゴルフを通じた人の輪が広がり、余生が楽しく過ごせることを念じ、皆様のご参加をお待ちしています。

――　０４’９月吉日　記

本厚木ＣＣ　（04･4･26）

パーティ　（04･6･16 御殿場西）

「在京芸陽観音ゴルフ会」に

広島本部発行の年会報「藝陽」に、各年毎のコンペの模様を掲載しておりますが、期待した程観音高校卒の諸兄の参加がなく、私のＰＲ不足を痛感。こゝに改めて当会の様子を紹介しますので、多数の申込よろしくお願いいたします。

記

(1)当ゴルフ会の歴史

１９８５年１１月、広島二中諸先輩による親睦会に端を発し、２００１年５月から観音高校が合流。　年３～４回の実施で既に３０回以上を数える。

(2)申込方法

至って簡単、（世話役に電話一本で可）年会費１，０００円でメンバー登録、（案内状等発送）３回以上の出場でハンディーキャップを査定。勿論、初回出場から新ペリア方式のハンディーで優勝が狙えます。

(3)使用されるゴルフコース

旧来は名門コース中心のコンペでしたが、昨今は準名門クラスで東、西のコースをとりまぜて計画しています。各コース共サービスデーを利用する等して費用負担を抑える工夫もしています。

但し２００５年度は名門コース中心の相模原ＣＣ、武蔵ＣＣ、飯能ＣＣ、久能ＣＣのいずれかと準クラス休日実施を企画中です。ご希望コースがあればご一報下さい。

(4)２００４年度・前半の成績は次の通りです。

表⇨

後半戦は引続き、千葉ＣＣ川間コース（９月２４日）と太平洋・成田コース（１１月５日）で実施されます。

(5)優勝者には毎回、松本　正氏（中22回）作成の軽妙洒脱な文章の賞状が贈られ、人気の的となっています。（ここ３回の例⇩）

世話役　（観音３回生）

山木　和雄

TEL／FAX　０３－３３２３－２１０８

年月日	ゴルフコース	優　勝	第２位	第３位	ベストグロス
03.11.11	太平洋・江南	斉藤(K20)	渡部(K3)	升田(K20)	山木(K3)
04.4.26	本厚木	中尾(中15)	槇田(中20)	渡部(K3)	石丸(中22) 井町(K2)
04.6.16	太平洋・[illegible]西	槇田(中20)	松本(K20)	井町(K2)	松本(K20)

斉藤　登　氏

中尾　博邦　氏

槇田　辰昭　氏

賞状

優勝

斉藤　登　殿

女子プロも闘うこの江南コースで貴方は二番手の大将戦の大正会の侍達を含めこの見事優勝しました　会員は貴方が芸陽会の大将です

平成十五年十一月十一日

芸陽観音ゴルフ会

会長　石丸達夫

賞状

優勝

中尾博邦　殿

数多コースがあるなかで本厚木はこの名門コースです　その名門に相応しい活躍をした貴方が過日行の春に準優勝を押さえ本年初の栄冠を手にしました　見出だし見出だし

平成十六年四月二十六日

芸陽観音ゴルフ会

会長　石丸達夫

賞状

優勝

槇田辰昭　殿

緑豊かな梅雨の中休みを惜しまれ風光明媚という言葉がピッタリの美しい太平洋ゴルフ倶楽部コースで優勝したあなたの姿は霊峰富士を美しくように美しかった　見出だし見出だし

平成十六年六月十六日

芸陽観音ゴルフ会

会長　石丸達夫

同期会だより

平成十五年度　東京二二会報告

当番幹事　上杉　襄一（二中22期）

平成十五年度の東京二二会は、十月十七日（金）午後の半日を鎌倉の海と寺社を散策、総会・懇親会を兼ねたパーティを「鎌倉わかみや」（国家公務員共済組合連合会保養所）で行いました。参加者は5組のペアを含めて二十名でした。

午後一時、江ノ島電鉄・藤沢駅改札口前に集合、レトロ電車「江ノ電」に乗り、住宅の軒先をかすめたり、一部区間は路面電車になったり、腰越海岸からは、七里ケ浜の海岸沿いに江ノ島を眺めながら、稲村が崎駅までの小旅行を楽しみました。

稲村が崎からは、鎌倉シルバーボランティアガイド斎藤顕一さん（上杉と同じ町内の方）に史跡めぐりの案内役をお願いしました。稲村が崎は新田義貞が鎌倉攻めの時、この岬から鎌倉に攻め入った古戦場跡であり、また、かつて逗子開成中学の生徒十二名がボートで転覆遭難した場所でもあります。

ここから徒歩で陸路に入り、鎌倉時代壮大な寺院であった極楽寺、鎌倉権五郎景正を祭神とする御霊神社、長谷観音、高徳院（鎌倉大仏）と廻り、夕刻、予定どうり「鎌倉わかみや」に到着。午後六時より夕食パーティを催しました。

前回の集い以降に物故された長井慎平、佐々木有利、両氏のご冥福を祈って黙祷、次いで永年東京湾水先人を勤め上げた労により勲四等瑞宝章を受賞した石川利之兄に記念品を贈呈しました。

パーティは懐旧談や近況報告で盛り上がり、再会を約して散会しました。

次回当番幹事は倉井敏夫君です。よろしくお願いします。

［参加者］
（五十音順）
池内正躬夫妻、石川利之夫妻、上杉襄一、大本龍之介、岡田隆、小栗啓市、亀井賢伍、倉井敏夫、佐藤博之、高島能仁夫妻、千葉ヨシコ（会友）、林　浩、松本　正夫妻、森田かほる（会友）、そして山田康彦夫妻。以上二十名。

高徳院＝鎌倉大仏にて・前列左から３人目はガイドの斎藤さん

［わかみや］にて・この回期は共学でもないのに何故か女性が…

＊なお、平成十六年度は十月下旬に鳩バスと都内郷土料理店を組み合わせた新企画を倉井当番幹事が具体化させている。本誌の発行直後ということ、したがってその報告も約一年後ということになります。
（本誌・松本）

イヤア楽しかった！　レトロな江ノ電も面白かったし、稲村が崎の遭難碑では朝比奈宗源の筆になる有名な詞　♪「真白き富士の嶺　緑の江ノ島　帰らぬ十二の　雄々しき御霊に…」　皆んながこれを大きな声で歌ったのも、御霊には悪いけど楽しかった…

二中22期が結成している二二（にいにい）会、その支部にあたる東京二二会は毎年、屋形船だとか宇宙センター見学だとか、趣向をこらす年度行事をやっているが昨年は古都鎌倉逍遥としゃれた。この期の活動レポートは同会が22年間にわたって発行した「会報仁いに伊」の完結によって今後この紙面がその場となる。

在京芸陽総会に合わせた本誌発行とのタイミングが悪く、一年前の旧聞は止むなしとして当番幹事の報告をお読みいただきたい。（本誌松本〈二中22期〉）

同期会だより

広島総会参加へやる気十分！
同期会ゴルフコンペもスタート！

観音２０回在京同期会報告

松本　直和
（観音20期）

日　時：　９月１０日（金）
　　１８：３０～２１：００
場　所：　五反田ゆうぽおと「サロン・ド・ジョワ」
参加者：　２０名

観音２０回の同期会をはじめて今年で３年目になります。名簿の上では在京メンバーは７７人いますが、今回は２０名の参加（女性は２／３）でした。例年２０名前後の集まりですので、平均かなと思いますが、今回初参加は４人いまして、常連で都合がつかない人を合わせると、参加者は増加傾向です。参加者からの勧誘も継続して、これからも更に増加することを期待しています。

今回は、ただ集まって思い出話に花を咲かせるだけでなく、１１月１３日開催予定の広島同窓会（我年代が実行委員です）の在京の参加者の取り纏めも目的の一つでした。おかげさまで参加者の中から９名が広島にも参加とのこと。中には超割航空券を既に予約済みの人もいまして、やる気十分でした。参加できない人の分もあわせて同窓会を盛り上げてもらいたいと期待しております。
皆さん、盆・正月以外はこういう機会でもないと決心がつかないでしょうし、大勢の同期に会えるチャンスだと期待されていることでしょう。

この同期会では、ビジネスの取引関係にある人、テニス、ゴルフ、ママさんバレーボール等々元気に活躍されている方もおられます。来年も顔を合わせたいものです。

山木先輩のご尽力で在京藝陽会のゴルフコンペが盛んですが、我２０回も９月２６日（日）太平洋クラブ・ラヴィスタコースでゴルフコンペをやることに成りました。また、岩瀬さん（Ｃ組）は『牧野裕のレディスゴルフ』に出演されまして１０月放映予定です。ＴＶＫ，ＣＴＣが受信可能な方はご覧ください。

以上
（９月１３日・記）

（前列左端　松本直和）

後輩の礼儀よさに感激？

＝同窓会本部初訪問の記＝

松本　正
（二中22回卒）

タクシーは来慣れた様子で、観音高校の正門から入ってクルッと旋回し、「ここでよろしいですか」。

事務室で同窓会館はどちらかと尋ねると、事務職の女性が外まで出てきて「あの校舎の向こうの建物の2階です」と丁寧に教えてくれる。何となくキョロキョロしながら向かう。

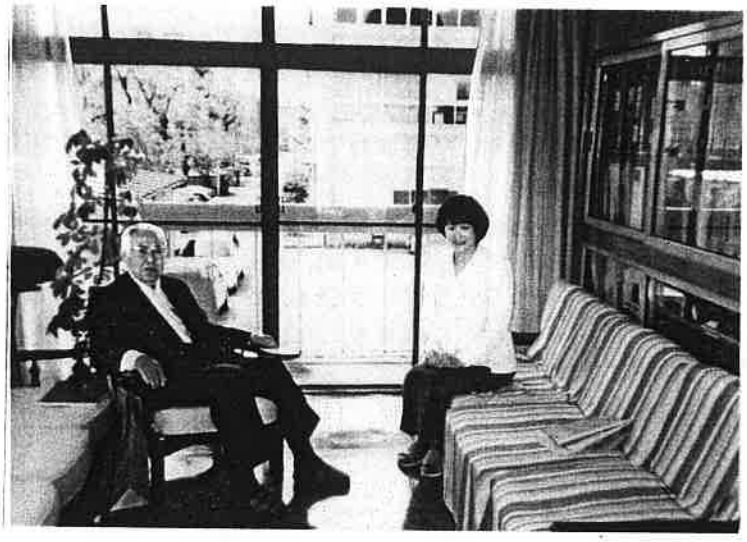
丁度昼休みの時間だろうか、すれ違う生徒が女子のみならず、むくつけき（？）男子までもが頭を下げるのだ、この得体の知れない訪問者に対して。

些かドギマギする。これが後輩達か…と嬉しくなった。その昔何かの仕事で富田林のPL学園を訪れた時を思い出した。客ともわからぬ人間に誰からも丁寧にお辞儀をされた。あそこは特殊な宗教教育だから、と解釈していたのだが、この県立の高校もこんな素晴らしい躾をしているのか…

「観音」って、ヒョッとしたら俺が考えているよりはるかに「いい学校」じゃないのか？

二中卒業の同窓の諸兄、母校の後身である観音高校を訪れたことがありますか？大多数の人が「ない」という答えだろうと思う。ましてや卒業後広島を離れ住まいを遠くへ移している人達はいわずもがなだろう。無論私もその一人。その私も、この「在京芸陽」2号を制作する段になって、「これではいけない」と観音高校、同窓会事務局を訪ねる気になったのである。時は平成十六年四月二十三日（金）の昼、前日我々22回卒業の同期「二二会」総会に出席して足を伸ばしたとご理解あれ。

同窓会館は学校構内の東北の隅といえようか、1階は売店や食堂となっており、ちょうど休み時間とあってか生徒達でごったがえしていた。裏の階段から2階の事務室に昇る。



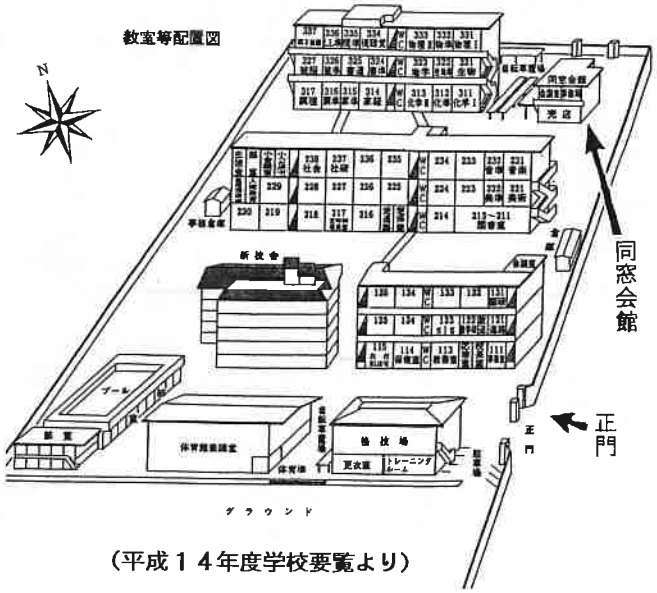
寺本同窓会長　　金藤朋子さん

予告しておいたとはいえ前夜流川での飲み過ぎで未だ酒の匂いの抜けないヨレヨレの私を事務局専従の金藤朋子さんが快く迎えてくれた。加えて、前日の集いで明日訪問を耳に入れておいた同期会の幹事長も兼ねる寺本和彦同窓会長が約束はしていなかったのに、これも私を待ち受けていたのである。

私、かつてはこの学校で教鞭をとっていた寺本会長に開口一番「生徒達がお辞儀をしてくれるのにビックリしたよ」

彼「全校生徒までは行き届かんが、ほとんどの生徒が、よう教えを守ってくれるんじゃ」

隣の会議室は兎も角、この事務室を1枚写しておきたい、と二人を座らせて撮った。ガラス戸を透かしてベランダの向こうの建物は事務室がある本館、美術、音楽教室は右手、左は正門方向。（写真上）



（平成１４年度学校要覧より）

観音23期卒の金藤朋子さんは、ご主人（21期）も息子さん（48期）も同窓という観音ファミリー。事務局専従何代目になるか、本部発行の「藝陽」編集から、秋の総会ともなれば裏方が大変。最近はバレー部ＯＢ会に寺本会長に帯同して出席、同窓会の

現況を説明するなど現場でも活躍している。　先年、ブラスバンドが新しく作った二中／観音校歌のテープを在京芸陽会に送ってくれたり、私が二十二年間作り続けて来た「会報仁いに伊」に「止めないで！」と最後まで叫び続けてくれた熱心な読者だった。今まで電話やＦＡＸの交流は数知れず、そしてこれが私には念願の初対面である。寺本会長が如何にこの専従を頼りにしているか、言葉の端々から容易に察することができる。

昼飯時とあって会長の言い出しで階下の食堂からうどんとチラシ寿司を取り寄せてくれた。学食だから安いのは無論として、私が所望した素うどんが懐かしい広島の味、美味かった。ここはいわば寺本会長の城、遠慮なくご馳走になったものである。

金藤さんが手に持つのは
「キリマンジェロ」の看板

同窓会の過去の文献、資料、「藝陽」をはじめ各種の会報類は書棚に大事に保管されている。

「これも大事にとってあるんですよ」

頭上には同窓会長三代の写真額が掲げられているデスクの前で彼女が手に持って見せてくれたのは雲形に切り抜かれた「キリマンジェロ」の看板。平成十二年に5階立ての新校舎を建設するまでの旧校舎のニックネームが誰が名付けたか「キリマンジェロ」。

2階立て校舎の入口に美術部の生徒が作ったこの看板が飾られ、親しまれたものだそうだ。過去の文集や記念誌にも登場する。今日、在京芸陽会につき合ってくれている若い観音同窓には懐かしい「お宝」ではあるまいか。（写真上）

正門から望む　　左向こうに５階立て校舎
グラウンドは向かって左方向

「クルマを呼んでくれ」　重篤な病にも打ち克って同窓会活動を生き甲斐とする寺本会長が引き揚げた後、金藤さんが校内を案内してくれた。会館の直ぐ傍らに同窓会が建てた小型の慰霊碑もある。

四年前の平成十二年に完成した5階立て校舎には目を見張った。エレベーターを使って教室に入るなんて我々の時代には夢にも思えなかった。緊急集合などにはエレベーター待ちが出来るのか？心配は余計か。（写真右）

学校正面玄関に戻り、すぐ左にあるショーケースには古色蒼然たるカップから真新しいトロフィーまで赫々たる戦果がギッシリ。（写真右下）

戦果を誇るショーケース

広いグラウンドにピチピチと躍動する多くの若者たちの白い姿が目に眩しく写った。

この今の観音高校は我々が二中にいた頃、当時は市商としてその校舎が直ぐ近くに望めたように記憶する。

校門で金藤さんに別れを告げ、歩いて元二中の校舎跡に向かう。ご存じの如く今は観音小学校。

広い道を隔てて裏門を眺める。昔は奇麗に列をなしたポプラが天高く亭々と聳えていたが、今やその面影もない。このあたりにも思い出は多い。プール傍に射撃部室もあった。先輩にしごかれた。

人生五十年と教わったその昔には考えもしなかった六十年どころか、七十年という歳月を生きてきたのだ。一入の感慨あって然るべし。

了

続編まで発行した 胡子 英幸 氏（二中17回卒）の『旅は道連れ』 ー夫婦海外旅行の思出ー

本誌前号では「フィリピンで第二の人生を謳歌する」秦光俊氏を紹介しました。今号では、同じく同窓の一人、定年後に夫婦で海外旅行した記録を自費出版した胡子英幸氏をご紹介したいと思います。

…二中17期の胡子英幸先輩（自治行政ひとすじ、消防大学長で退官、平成八年勲三等）が永年の奥さんとの旅を綴った一冊『旅は道連れ－夫婦海外旅行の思出－』を上梓した。ツアー参加の気楽な旅で感じた事を書き連ねただけとのことだが何のなんの正確な時日、訪問先の歴史など詳細な記録はかつての能吏ぶりを窺わせるに余りある。A5判四七〇頁、臙脂クロスに銀箔文字、非売品…

これは本誌松本が作っていた［会報仁いに伊］18号（平成十一年二月）［同窓ゆかりの出版物］で紹介した記事です。昨平成十五年の二月にこの続編『続旅は道連れ』まで出版されたのであります。

目次を拾えば、昭和五十四年のハワイを皮切りに、ヨーロッパ、中国（香港、広州、桂林）、ポルトガル、スペイン、イタリア、トルコ、ギリシャ、エジプト、オランダ、ベルギー、北欧、東欧、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、スイス、南仏、等々から平成九年のロシアまでの十五回までを正編に、十六回目の平成十年スコットランド、イングランド、さらに北イタリア、中国（山東、河南省）、シチリアと南伊等、平成十四年のポーランドとチェコまでを続編と、全二十回に及ぶ夫婦旅行を綴ったものです。正編で私が思った「コース地図があれば尚良かったろうに」は続編で実現していました。

氏としては公務員としての現役時代に既に訪れた箇所も多く、この目次だけ見てもコース上、重複訪問地もあって当然と思われますが、それだけに氏のこれらの地への深い思い入れを感じるのです。本文がどんな文体か、ほんの一節抜粋。

（アムステルダムの国立美術館で）…　その他レンブラントの作品として「聖ペテロの否認」「伝導者パウロとしての自画像」「修道僧の法衣を着た息子ティトゥス」「織物業者組合の幹部たち」「ユダヤの花嫁」などを見学、更にヤン・ステーン（一六二六年～一六七九年）の「病気の婦人」「身支度する女」、ヨハネス・フェルメール（一六三二年～一六七五年）の「ミルクを注ぐ女」「手紙をうけとっている女」「手紙を読む女」などを見て廻ったが、私はフェルメールの作品に強く心惹かれた。　（正編一九七頁）

このように美術に造詣の深い氏は、観光もさることながら、各地の美術館、博物館にのめり込んで克明に記録してるのです。イギリスやフランスは無論、エジプト王朝などについても西洋史、古代史そのもの。中国に行けば玄宗皇帝、西太后などの名前がポンポン出てきて東洋史そのもの。

また陶磁器への関心も並み外れ、トレドで絵皿を買いそびれて恨み、デルフト焼の壁掛は買えたが、マイセンの陶磁器博物館に売店が無かったと忿懣やるかたない。それにしても分刻みで移動するツアーでの行動をよくもまあこんなに細かく記録しているものかと感心します。

上・続旅は道連れ　220 頁、表紙は抹茶色クロス張り。
下が正編、タイトル文字はいずれも銀箔捺し。

今時、旅行の回数頻度などはこれより多い人は沢山いるでしょう。しかし、その記録をこれだけ克明に残す例が他にあろうとは思えません。かく申す私松本も一九六四年世界博スタッフとしてのNY出張を手始めに海外旅行は人並みにこなしているつもりですが、その記録の残し方はいい加減なもの。この本で「そうだそうだ」と共感する箇所が結構ありますが初めて知ったことも多いのです。ロシアの共用トイレには便座がないことや、プラハには原爆ドームに似た建物産業貿易省がある、などなど。

私、この全編に目を通して、これは氏の［文化遺産を訪ねる【勉強】の旅に外ならない］と思いました。NHK教育などのテレビ番組で旅心を触発されたことも多いそう。まず事前に訪問先の歴史、文化等を調べて、現地で写真撮りに熱中、そして帰国後にはまた改めて見聞したことを書物等で確認する、つまり、予習、実習、そして復習、やはり子供の頃から［デキル］人は違いますねえ。

さりとて、ガリ勉ばかりではない、旧制広高で第一外語でとったドイツ語を駆使してバスの中や、スイスの少年合唱団の歓迎に応えて、原語でモーツアルトの「野バラ」を大声で歌う、という楽しい面も見せています。　私もセーヌ川のバトウムーシュで流しのおじさんに合わせて「サセ・パリ」とガナったことがありますが横綱と幕下ほどの違いですナ。

氏の［あとがき］によると、この本は自叙伝と考え、後日子供や孫達が同じ地を訪れて喜びや楽しみを共有してくれることを願っている、だから、多くの人々に言いふらす気は毛頭無い、こんな会誌に紹介されるのは本意ではないとのこと。

［胡子英幸］大田区石川町在住。大正十五年一月山県郡加計に生まれ広島二中から広高へ、仙台予備士官学校で終戦を迎え、最後の高文試験にパスして内務省に採用された上で東京大学法学部を卒業、爾後全国地方自治体を転々としながら能吏ぶりを発揮、消防大学校長を最後に退官してからは全国都道府県議会議長会事務局長などの公職を歴任して平成八年勲三等叙勲、東京広島県人会総会ではステージ最前列で満場の拍手を受ける。芸陽ゴルフ会常連。

現役時代は休暇に罪悪感さえ持っていた人がリタイア後、国内旅行は勿論、銀婚記念でハワイを訪れたのを手はじめに昨年金婚記念で二十回目の夫婦海外旅行を実現、その記録まで出版して世に残す。こんな《人生の達人》が我々の同窓にもいるのです。

（本誌／松本）

コペンハーゲンの人魚の像（デンマーク）（昭58.4.18）

シャンボール城（フランス）　（昭62.5.26）

マウイ島のイオニア・ニードル（ハワイ）（昭54.1.30）

カッパドキアのきのこ岩（トルコ）　（昭63.4.19）

ギザのスフインクス前広場（エジプト）（昭63.4.24）

写真は掲載多数の中からリプリントに適したものを胡子氏の許可なく選択したもので、他意はありません。（本誌）

洛陽、龍門石窟の奉先寺（中国）（平12.9.13）

ユングフラウのプラトーに立つ（スイス）（平5.7.8）

上海の魯迅の墓（中国）　（昭61.5.6）

東京オリンピック返上！　日米開戦！

「我が在校の頃を想う」

二中18回生
岡島　知一
元陸上自衛隊・第四師団副師団長
兼福岡駐屯地司令
平成九年春　勲四等旭日小綬章　拝受

われら18回生の在校期間、昭和十四年～十九年の日本は、まことに戦時色濃い時代であった。初めに少々当時を振り返ってみたい。

入校二年前の昭和十二年七月七日、日支両軍は北支の蘆溝橋で軍事衝突する。

政府は、これを北京・天津を戦場とする局地紛争と考え、不拡大方針を貫いてきたが、意の如く運ばず、北京・南京・徐州・武漢三鎮では勝利を挙げながらも戦局は底無し泥沼に陥ちいっていった。

国民精神総動員の運動が具体化され、日常の生活基準は引き締められて、国を挙げて支那事変終決に集中していたのである。

なお十五年九月開催予定のオリンピック東京大会も、一触即発の国際情勢と国力温存策の理由から、十三年中頃にこれを辞退することが決められた。

二中入学早々の十四年五月には、満洲国とモンゴル国との国境ノモンハンで、不明確な国境を要因とする日ソ武力衝突が起こる。戦果は明らかにされなかったが、結果的にソ連の圧倒的な機械化戦力と火力により、我が方は莫大な損害を受けており暗い陰を落とす。

同九月、ヨーロッパではドイツ軍がポーランドに侵攻、第2次世界大戦がここに勃発した。国内では七月に国民徴用令が敷かれ、これは戦時体制への移行と軍需工業の生産力拡大を目的とするものであった。

昭和十五年、我々の2学年時、九月に日本軍は北部仏印進駐、続いて日独伊三国同盟調印となる。

昭和十六年四月、明治以来続いてきた小学校は「皇国の道、臣民の道」の錬成場所として国民学校に改められ、一層国家主義的色彩が強められた。

六大都市では、米穀は配給通帳制（一人二合三勺）となり、衣料は切符制、更には米国の対日石油輸出の全面的停止等によって、国民生活は益々耐乏を強いられる時世となった。

以上のような内外の変遷著しい中の学校にあっても、学生生活は平時にも準じた明るく楽しい思い出を多々残してくれた。

今や六十年の時を超え、個々についての記憶は確かでないが、「関西方面への修学旅行・安佐郡中原村修練道場での合宿教育・バレーボール全国大会優勝・プールでの水泳訓練と競泳大会・全校運動会・忠海で一週間の臨海学校・宮島マラソン・体力検定でバッチ獲得に頑張ったこと　等々が思い起こされる。

かくして我らが3学年の二学期も終わろうとする昭和十六年十二月八日、破局への長い道程を辿りつつあった日本は、遂に日米開戦の時を迎える。

当日は二中生徒の勤労奉仕日で、我々3年生は観音町南新開埋立地の「総合グランド土木作業」に従事する予定になっていた。自宅で出発の支度をしている六時頃、ラジヲは突然「日米開戦」を知らせるショッキングなニュースを繰り返しはじめた。

「臨時ニュースを申し上げます臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部午前六時発表。帝国陸海軍は本八日未明、西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり。」

ラジヲは軍歌を流し、決死的空襲により甚大な損害を与えている旨告げていた。今までの米英は対支援助等日本に対し露骨な嫌がらせを続けていた。

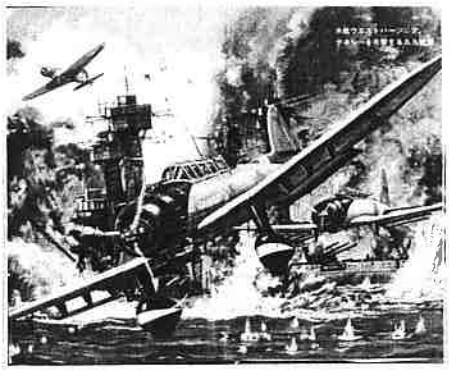


イラスト　北沢しげる
（ダイナミック・コミックスより）

「日本は起つべくして起ったのだ。遂に来るべきものが来た」と、全身の引き締まる思いがし、また欧米とのまともな戦いに一抹の不安を感じた。

勤労奉仕の集合地点に着くと、生徒達の話題は今朝のニュースで持ちきりで、皆興奮状態であった。

初頭の大戦果に国民士気は盛り上がった。戦局は次第に航空決戦の様相を濃くし始め、決め手となる航空戦力充実の必要から、甲種予科練習生等の募集が大きく叫ばれた。

「七つボタン」の歌は流行り、我等仲間からも数名がこれに応募、勇躍入隊して行った。

勤労奉仕の種類は、農村手伝いから軍の施設が主となり、兵器廠、被服廠、糧秣廠等を訪れては、重砲弾薬・兵器・携帯糧食等珍しいものにも触れた。

昭和十七、八年（4、5学年）になると、我々にも陸士・海兵等の受検資格が生ずる。既に軍の学校に身を置く先輩達も夏休みの帰省で軍装の姿で来校、大講堂に我々を集め受検を勧誘した。また教員先生方の勧めも積極的になり、軍学校志望の生徒は増えていった。高等学校等志望者連中より一足早く軍学校の合格通知を得た者達は早めの卒業となる。

受検勉強からの開放感からか、卒業の祝いと称し、小生を含む「悪る共」数人は下宿生の家に上がり込み、当時の食料難事情から絶対に入手困難であった牛肉（多分、田舎の方で密殺された牛を、コネのある誰かが確保したものか？）で、時局に不相応なスキヤキ会を開き腹一杯になったこと、また不良学生には恐れられる存在・ヒラクマ氏等教護連盟の眼を気にしながら、生徒達立入禁止の喫茶店に入り、初めて「モカ」と云うコーヒーを賞味した事など、今懐かしい思い出である。

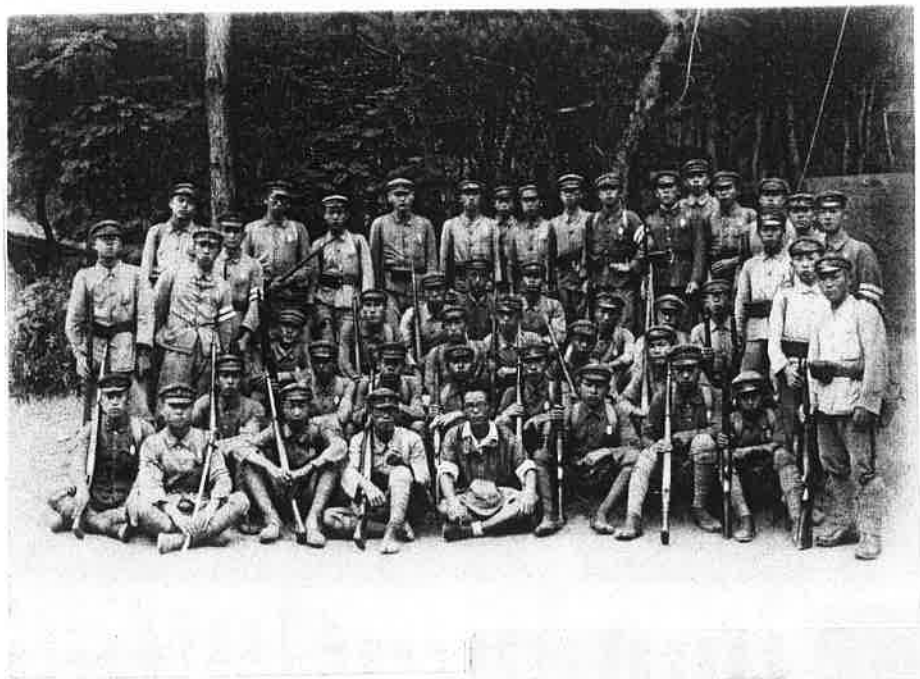
（おわり）

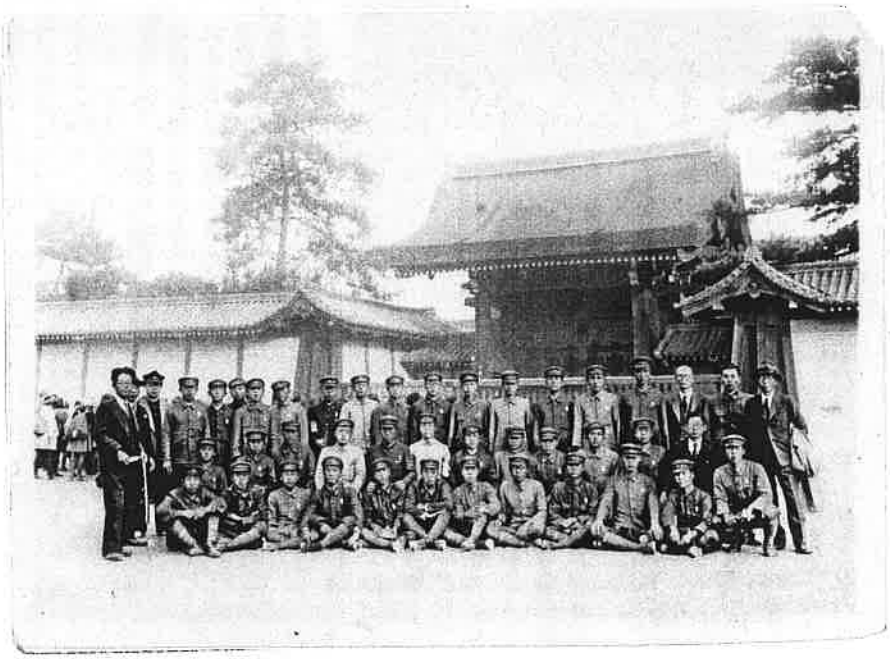
［大和市在住］

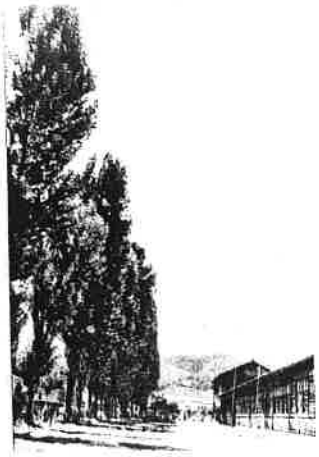
［本誌註］18回同期の三宅紳重氏から岡島氏の文への参考として提供された貴重な古写真2葉。説明文も三宅氏のもの。

⇦　左の写真は軍事演習の時です。四年の時か、五年の時か不明です。場所は多分八本松の演習場ではないかと思います。今のゴルフ場あたりでしょう。

⇩　下の写真は京都御所の前だと思ひます（？）四年十八学級のものです。主任は升田先生、一番左の人です。







旧校舎に亭々と聳えるポプラ
（七十年記念誌「白楊」より）

三宅紳童家秘蔵アルバムから…

前頁、岡島氏の文に参考として二中18同期の三宅紳童氏（元三井不動産建設㈱代表取締役＝右写真）から数葉の古写真が提供された。そのうち２枚を岡島氏の文に合わせて掲載したが、その他をボツにするには余りにも惜しい。就中、７人の先生方を撮ったこの一枚は、固い記念写真ではなく寛いだポーズで、二中ＯＢ大多数の興味をひくこと必定、まことに珍しいものと思います。これにもう２枚を加え、この紙面は観音組には申しわけないが、二中アーカイブズとお許し願いたい。説明のゴシック文字は三宅氏の文、これに本誌の註を加えました。

⇧これは可部の修練道場で一八回の担任の先生方の写真です。左より升田先生、山本先生、西村先生、四人目不明、五人目砂ぶく先生（あだ名しか思い出しません）、六人目不明、七人目岡田先生。

［本誌註］四人目は紛うことなく《ガンメン》堂崎豊先生。《砂ぶく》は数学の柏原米吉先生でしょう。六人目は髪の毛があだ名の《山嵐》のように立っていませんが、目から下は物理の今城先生のように見えますが…。

⇦この写真は私が五年の時、広島県大会で優勝し全国大会に出る事が決まった大会でした。それから間もなく社会情勢が悪くなり全国大会が中止となり残念でした。左より山本裕一君、迫田賢三君（十九回卒）、私、村越幸三君、西本昌昭君（没）洋服を着用して居るのが補欠として秋本博文君（十九回卒）。先生は左が古田校長、右が柔道担当の先生（名前不明）

柔道部の猛者として鳴らした三宅氏に敬意を表し、上写真の時の顔をアップにしてみました。

⇨下段は五年の水泳大会、二十三学級で優勝をした時のものだと思ひます。一番前の扇を持った人は奥窪の兄貴です。

［本誌註］この奥窪とは現・在京芸陽会事務局長の兄君。

へぇー へぇー へぇー

昨年１１月、本誌松本が４０年ぶりにニューヨークを訪れて持ち帰ったドル札、２千５００万ドルです。
コピーは原寸の約７５％。
表にはブッシュ大統領、裏面にはお尋ね者として右にフセイン、左にオサマ・ビンラディン…

そうです、これはギフトショップで、１$で買ったお土産なんですが、大きさも本物と同じなら、色もご存じグリーン。

私、財布に入れて危うく支払いに出しかけた位。その後、西部で実際に女性が偽札を使って逮捕されたというニュースを聞きましたが、さもありなん。

日本では考えられないでしょう。呆れるか、アメリカの懐の深さに感心するか。「トリビアの泉」のような「へぇー」も出るかと、貴重な紙面にこんな〈お遊び〉　お許し召さるか。

1号への声

♥「豊富な内容と貴兄の健筆には敬服しました。すべて手弁当でおやりになっていることを聞き、頭がさがります。今後は会費を値上げするなどして予算を充実し、多く部数を作成されれば一層同窓会が発展するものと思います。」
（植花　武氏〈二中13期／会計事務所経営〉からメールを頂きました。恐縮です）

♥「主人の追悼記事、有り難うございました。同窓の皆様にはお世話になりました。孫がおじいちゃんの記事をコピーすると言っています。」
（故徳田浩三氏〈二中7期〉夫人・千鶴子様から電話を頂戴しました。勿論もう一部お送りしたら凄く喜んでくださいました。）

♥「私のことをこんなに持ち上げてくれて感謝の言葉もない」
（竹林信夫氏〈二中1期〉は総会で乾杯の音頭の際も1号を手にしながら。同じ記事で紹介した佐藤　毅先輩からも難聴の身をおして犒らいの電話をくださいました。）

♥「驚いたねェ。僕の話を載せて…」
（フイリピンに移住した秦　光俊氏〈二中21期〉からメールに続いてマンゴの缶詰）

♥「思いもかけない人から、この会報に私のことが載ってるよと言われたよ」
（日本航空システム取締役特別顧問の舩曳寛眞氏（二中24期）からの電話に「じゃ今度会ったら詳しく聞こう」と返事をしたまま、その日はまだ来ていません。）

本誌《3号雑誌》の寿命？

前号の［あとがき］に《これ最初で最後？》とふてくされたようなキャプションをつけた本誌ですが、ようやく2号というのに今度は3号で終わりになりそう…だなんて　「マジメにやれえ」という声が聞こえてくるようです。

いわゆる《3号雑誌》というのは、新しく雑誌を創刊しても、売上げも伸びず、資金も続かず、内部での意見不一致もあったりして大抵3号あたりでポシャルことが多いからですよネ。

一人で取材し、一人で編集し、一人でコピーし、一人で製本化粧裁ちまで…　植花先輩から激励を受けたりしながらも、余程ドラスチックな情勢変化が起きない限り、来年の3号までは約束しますが、その後は当方私的なライフスケジュールもあって続けられる自信がなくなりました。［お前が勝手に始めたんじゃないか！」ご尤もです。

新聞社勤務の同窓でも引き継いでくれるのではないか、と期待を持ってはじめたプレゼンなのですが、夢は夢のままで終わりますか。

印刷屋に出すという前提で、誰方かがまとめてくれるのなら、寄稿などするに吝かではありませんが、会の今の財政では叶いそうもありません。

前号のような体裁では送料が高くつくというクレームを受けて、今号では頁数も減らし、表紙の紙厚も薄くしました。しかしこれは両面印刷が透けて見えるので一長一短です。

事務局長が言うように、これからは観音卒の時代です。いい知恵を出してこの芽を育ててもらえれば嬉しいのですが。

［本誌・松本　正］

風土が育んだ
ほんもののおいしさを伝えます

玉萬寿醤油（たまます）

■全国醤油品評会■
◆昭和56年　食糧庁長官賞
◆〃　61年　〃
◆〃　63年　農林大臣賞
◆平成10年　〃
◆〃　12年　食糧庁長官賞

濱口醤油醸造場 〒737-2211広島県佐伯郡大柿町柿浦2080 TEL0823-57-2136 FAX0823-57-7122
商工会ホームページアドレス http://www.ogaki.or.jp/shopm/hamaguti/
〔能美島に実家がある観音20回期・猪原陽子さん（旧姓濱口）提供〕

［在京芸陽］２号　平成16年（2004）10月15日発行　第１刷
企画制作　松本　正　《マツモト・デザイン》　（二中22回卒）

〒216-0001　川崎市宮前区野川30-8　携 090-9387-7770
TEL 044-751-2156
FAX 044-751-5205
Email　matsumoto-design @ ezweb.ne.jp